

## 日本労働年鑑 第73集 2003年版

The Labour Year Book of Japan 2003

## 特集 メンタルヘルス問題と職場の健康—その現状と対策

## むすび

メンタルヘルスの悪化の問題は、主として産業医学を中心に検討されてきたが、もはやそれだけでは対処できない差し迫った状況となっている。韓国を含めて、経済発展した国が共通に経験する苦悩だといえよう。

メンタルヘルスの悪化は、個人の病気としての面だけでなく、事業活動に対する悪影響という面でも深刻である。患者を抱えた家族の経済的困難や心理的な負担も大きい。うつ病の診断や治療は進んではいるものの、職場における予防や職場復帰に関しては課題が山積している。

メンタルヘルス対策を講じるうえで、経済学や社会学の分野の知見も動員する必要がある。そのためにも、まず着手すべきことは、国家のレベルにおける大規模な統計調査であろう。研究者や事業所のレベルでは、経済的にも負担が大きすぎるし、プライバシーという制約もある。ここでは、何よりも現実をありのままに見据える勇気が求められているのであり、メンタルヘルス問題の現実を明らかにすることから出発しなければならないのである。(鈴木安名・千田忠男)

## 【参考資料】(本文中で引用されたもの以外)

- (1)厚生労働省ホームページ<http://www.mhlw.go.jp/>、(2)警察庁ホームページ<http://www.npa.go.jp/>、(3)国立公衆衛生院自殺防止研究グループのホームページ<http://www.niph.go.jp/wadai/bousi/>、(4)社会経済生産性本部ホームページ<http://www.jpc-sed.or.jp/>、(5)ILOホームページ<http://www.ilo.org/public/english/>、(6)岡村親宣「改正過労死労災認定基準の意義と問題点」働くもののいのちと健康を守る全国センター編『過労死労災認定活用ハンドブック』二〇〇二年、(7)高橋祥友著『自殺の危険』金剛出版、一九九二年、(8)厚生労働省『職場における自殺の予防と対応』中央労働災害防止協会、(9)島悟ほか「産業・経済変革期の職場のストレス対策の進め方 各論一：一次予防(健康障害の発生の予防)EAPについて」『産業衛生学雑誌』(四四)二〇〇二年、(10)川上憲人他「従業員援助プログラム(EAP)からみた産業精神保健の将来」『産業精神保健』五(一)一九九七年、(11)中川茂昭「産業・経済変革期の職場のストレス対策の進め方 各論三：三次予防 復職の判定と支援」『産業衛生学雑誌』(四四)二〇〇二年、(12)池田智子他「小規模事業主のメンタルヘルス対策への意識と取り組み」『産業衛生学雑誌』二〇〇二年、(13)川上憲人「気分障害の疫学研究—最近の進歩」『最新精神医学』四(一)一九九九年、(14)友田貴子「地域調査データに基づく閾値下うつ病の頻度とその特徴」『季刊 精神科診断学』八巻四号、(15)『メンタルヘルスケア実践ガイド』産業医学振興財団発行、二〇〇二年、(16)鈴木安名『職場のメンタルヘルスがとことんわかる本』あけび書房、二〇〇一年、(17)『朝日新聞』、(18)Margot Shields, "Long working hours and health", Health Reports (Autumn 1999, Vol.11, No.2)。

日本労働年鑑 第73集

発行 2003年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 旬報社

2006年8月4日公開開始

